

みどりかがやく

体と心を健康にすることと学びを生かすこと

マリーゴールドの花が、花壇からあふれるように咲いています。昨年も花壇にマリーゴールドを植えました。今年ほどは見事に咲いてはいなかったと思います。オレンジ色や黄色のマリーゴールドは、見ていて元気が出てきます。ましてや、山のようになっている株からは力強さを感じます

中学生を含む若い世代の方には‘あいみょん’さんが歌った「マリーゴールド」の歌詞が思い出されるかもしれません。この歌詞の中に、夏の空の青さについて書かれている部分があります。空が青く思えた夏は去り、時間は確実に経過して

いきます。その時間の中で生徒一人一人がいくつもの経験を重ねていきます。学校生活の中で、話をしたり、同じ作業をしたり、意見が食い違ったり、時にはいさかきがあったり、涙したり、想いが通じたり、気持ちが一つになったり、生徒たちは多くのことを経験しながらコミュニケーションの取り方や人との距離感を学習し、心も成長させていきます。

さて、10月30日（金）に、体育祭がありました。本来は5月30日（土）に予定されていたものです。コロナ禍で縮小しての開催としましたので制限はありましたが、保護者の方の見学も各家庭、原則一名とさせていただきました。その中で、生徒たちは自分の競技種目に一生懸命取り組んでいました。例年なら応援合戦も審査の対象になりますが、感染拡大防止の観点から、今年はプログラムから外すこととしました。体育祭は、生徒が体を使った表現を発表する一つの場ではありますが、ここにたどり着くまでにたくさんの学びがありました。個人種目では自分の技能をいかに高めるか。グループの練習では、リーダーを中心に、よりよくなるように工夫を重ねてきました。体だけでなく、思考力や心を鍛えるトレーニングもしてきました。事前の練習の様子を思い返すと、窓の外からは体育の時間にリレーの練習をすることがわかると、「やった！リレーだ」と喜びの声が聞こえてきました。大縄飛びの練習ではみんなで声を合わせて練習していました。人とのつながりが必要とされる種目を練習する中で、達成感や成就感を感じてもらえたようでうれしく思いました。

マリーゴールドは、「聖母マリア様の黄金の花」という意味で付けられた名前だそうです。キリスト教では、聖母マリア様の祝日という日が3月頃から11月頃にかけて複数あるようですが、聖母マリア様の祝日の期間はいつも花が咲いているので、この名が付いたとされています。マリーゴールドの開花期間は長く、3月から12月くらいまでです。マリーゴールドの和名は、千寿菊とか万寿菊とも言いますし、花がもつ意味には「健康」というものもあるようです。生徒たちには、体も心も健康であってほしいと思います、

暑かった夏から秋になり、時間は確実に経過していきます。その中で、ただ単に時間が経過するのではなく、いろいろなことを学んで経験とし、これからの生活に生かしてほしいと願っています。



花壇からあふれるマリーゴールド